



Title	携帯情報端末の技術とサービスに係る用語について：高等学校の教科「情報」において指導すべき用語として
Author(s)	高田, 和典
Citation	国際広報メディア・観光学ジャーナル, 12, 131-151
Issue Date	2011-03-22
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/45210
Type	bulletin (article)
File Information	JIMCTS12_008.pdf



[Instructions for use](#)

携帯情報端末の技術と サービスに係る用語について —高等学校の教科「情報」において 指導すべき用語として

高田和典

On the terms related to the technology and services of cell-phone and PDA

—As the terms to be taught in the subject “Information study” of senior high school

TAKADA Kazunori

abstract

The central topic of this paper is to show a list of the terms related to the technology and services of cell-phone and PDA which senior high school students should learn in the subject “Information Study.” The terms related to the technology and services of cell-phone and PDA were chosen from textbooks and books for teaching aid. Terms from the books for teaching aid were cross-checked with terms from the textbooks. Common terms were left off from the list of teaching aid's terms, and a list of selected terms was made. Frequency of the terms in newspapers and a white paper was analyzed to evaluate the importance of the terms. The number of terms important for students is 15.

0 はじめに

0.1 教科「情報」とは

社会の情報化の進展に伴い、学校教育においても情報化に対応した教育が求められるようになった。平成15年に高等学校において教科「情報」が新設され、情報教育の充実が図られた。教科「情報」は普通教科「情報」と専門教科「情報」から構成されているが、本研究は普通教科「情報」を対象とする。普通教科「情報」は、「情報A」、「情報B」、「情報C」の3科目から組織されている。平成25年度より高等学校において実施される次期学習指導要領では、普通教科「情報」が共通教科「情報」となり、組織される科目も「社会と情報」、「情報の科学」の2つに再編される。普通教科「情報」と同様、共通教科「情報」は原則としてすべての高校生が学習する必修教科である。

普通教科「情報」の教科書は改訂版或いは三訂版が主であり、平成15年当時の教科書の内容に大幅な変更が加えられている。しかし最新の教科書は、文部科学省による教科書検定を平成18年3月3日付で通ったものである。今から4年以上前に教科書が執筆されており、現在の情報に関する最新の内容を反映しているとは言えない。

0.2 本研究の進め方について

高等学校で教員が授業で中心とする教材は教科書である。教科書が平成18年以前に書かれたものであり、それ以降の情報技術やサービスについての記述が欠けているため、高校生が学ぶべき事柄として教科書の内容だけでは不足である。教員は市販の書籍や公開されている文献等を参考にして、高校生が学習すべき知識や技能を調べ、教科書を補うべき内容を明らかにする必要がある。

本研究では普通教科「情報」のうち、「情報A」の教科書を調査対象とする。教科書から携帯情報端末の技術とサービスに関する用語を拾い上げ、次に補助教材から同様に用語を拾い上げる。補助教材から拾い上げた用語から教科書から拾い上げた用語を除いた上で、本研究では扱わない情報モラルに関する用語を除き、調査対象とすべき用語の絞り込みをした。広く一般で使われている用語かどうかを確認する手段として、白書や用語事典、新聞、インターネットの検索エンジンで用語の使われている頻度を調査する。調査結果をもとに教科書に載っていない用語の中で、高校生に学ばせる必要のある携帯情報端末の技術とサービスを示す用語を提示する。一連の調査を整理すると、教科書における用語の記述の調査、補助教材における用語の記述の調査、教科書の用語と補助教材の用語の重複の調査、授業で教えるべき用語の選出、新聞及び白書と用語事典による社会一般で使われる頻度の調査、授業で教えるべき用語の確定となる。

0.3 携帯情報端末の定義

携帯情報端末は、英語では“Personal Digital Assistants”といわれ、PDAと略され、スケジュール、住所録、メモなどの情報を携帯して扱うための小型の電子機器である。現在使われている携帯電話の多くは通話やメールを行う通信機能に加え、インターネット接続、スケジュール、住所録、メモなどを管理する機能を持っている。インターネット接続や電子メール、小型キーボードやOS、ソフトウェアを持ったスマートフォンもある。本研究では小型で携帯でき、インターネット等で情報のやり取りができるような機器を総称して、携帯情報端末と呼び、具体的には、携帯電話、スマートフォン、PHS、PDA等を含むものとする。

1 教科書における携帯情報端末についての記述

1.1 授業における教科書の位置付け

高等学校の授業において、教科書は教員が授業を行う上で中心となる教材である。学校教育法第34条には、小学校においては、文部科学大臣の検定を経た教科用図書又は文部科学省が著作の名義を有する教科用図書を使用しなければならないと定められており、この規定は、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校にも準用されている。高等学校の授業は、教科書に沿った内容で実施されるのが通常である。

1.2 教科「情報」における「情報A」の教科書についての説明

授業では、教員が教材である教科書を使って生徒に学習すべき内容を教える。教員が授業を行うときに、教科書の記述がどのようなものであるかが重要である。普通教科「情報」は、「情報A」、「情報B」、「情報C」の3科目から構成されている。普通科の高等学校の生徒は、「情報A」、「情報B」、「情報C」のいずれかの1科目を履修し修得することが、高等学校を卒業する要件の1つとなっている。本研究の調査対象は現在出版されている9社14種類の「情報A」の教科書である。「情報A」を選択した理由は、現在私自身が高等学校において「情報A」の授業を担当していること、3科目のうち「情報A」の教科書の採択率が1番高く、多くの生徒が学んでいるからである。

今回調査した「情報A」の教科書に対する文科省の検定はこれまでに3度実施され、日付は平成14年1月20日、平成16年2月29日、平成18年3月3日である。教科書会社の中には、平成14年検定済みの教科書を新版の教科書と併せて出版している会社もあれば、教科書の内容をその都度改訂し

ながら、単元ごとの区切りを重視した授業に対応した教科書や、プロジェクト型学習ができるように総合演習に力点をおいた授業をしやすいように構成された教科書など、授業の進め方にあわせて教員が選択できるよう、複数の教科書を出版している教科書会社もある。

1.3 教科書「情報A」における携帯情報端末についての記述

本研究においては、携帯情報端末に係る技術とサービスの用語について調査する。教科書14種類から「携帯情報端末に係る技術とサービス」という観点で65語を選び出した。

2 補助教材における携帯情報端末についての記述

2.1 補助教材の役割について

通常教員は、教科書の他に別の資料を活用することが多い。教科書会社が教員向けに出版している教授資料や、教科書会社が生徒向けに副教材として提供する「情報モラル」や「情報最新トピック集」などの補助教材がある。その他、教員は授業のネタを集めるために、週刊パソコン誌や月刊パソコン誌を活用することもある。授業を進める教員の立場から判断すると、教科書会社が出版している補助教材は高校生向けに作っており、教員として非常に使いやすい。

2008年から2010年の間に教科書会社が出版し、教員が入手しやすいと思われる補助教材を用い、携帯情報端末に係る技術とサービスに関係すると思われる用語を検討することとした。

2.2 調査する補助教材について

現在、特に高等学校で指導すべき項目として注目されているのははじめや学校裏サイト、個人情報保護といった項目である。教科書会社が出版している補助教材は「情報モラル」を説明したものが多く、調査した補助教材はコンピュータの技術的な事柄について詳しく説明したものが1種類、「情報モラル」を中心に書かれたものが7種類であった。

調査した補助教材の出版時期は、2008年末から2010年5月である。授業で学習すべき用語としてふさわしいと考える用語を232語選び出し、検討材料とした。

3

本研究で取り上げる
携帯情報端末に係る用語

3.1 教科書で扱われている用語の絞り込み

教科書14種類から携帯情報端末に係る用語として選び出した65語のうち、教科書5種類以上で取り上げられている用語27語を抽出した。本研究では携帯情報端末の技術とサービスに係る用語を調査対象としている。そこで、情報モラルに係る1語を除き、表1の26語を教科書で扱われている携帯情報端末の技術とサービスに係る用語とした。教科書により用語が異なる場合でも、共通のサービスを指すと考えられるものはそれを1語とカウントして、異なる用語を括弧で示すことで表すこととした。

■ 表1 教科書で扱われている携帯情報端末の技術とサービスに係る用語
(26語)

携帯電話、カメラ付き携帯電話、PHS、携帯情報端末 (PDA)、携帯型情報通信端末、ICカード、QRコード (二次元コード)、インターネット対応携帯電話、パケット通信、パケット、フラッシュメモリ (xDカード、SDカード、CFカード、メモリスティック)、文字化け、機種依存文字、MP3、画素数、テレビ、ICチップ、電子メール、Web接続 (インターネット接続)、CC機能、BCC機能、電子マネー、電子掲示板 (BBS)、チャット、ブログ、テレビ電話

3.2 補助教材で扱われている用語の絞り込み

補助教材8種類から携帯情報端末に係る用語として選び出した232語のうち、補助教材3種類以上で取り上げられている用語67語を抽出した。表1の用語と情報モラルに係る語句を調査対象から外し、32語に絞り込んだ。32語の中には個々のサービス名称としての用語がある中で、1つのサービスの総称としてまとめることができるものがあり、それは分類としては総称の用語としてここでは絞り込むことにした。そうしてまとめると32語が25語に整理することができたため、調査対象の候補とした。まとめた用語はフィルタリングと無線LANである。フィルタリングにはホワイトリスト方式、ブラックリスト方式、レイティング方式、キーワード/フレーズ方式がある。無線LANにはSSID、ESS-ID、WEP、WPAを含めた。

普通教科「情報」の授業は、1コマ50分を70回実施するのが、標準である。文科省の学習指導要領に基づいて作成された教科書で教員が定められた内容を教えた上で、さらに補助教材で新たな内容を教える時間は限られている。携帯情報端末の技術とサービスについて、補助教材を用いて教科書を補う授業時間を3コマと想定する。3コマの授業で25語に係る内容を説明するのは、時間が不足する可能性がある。後にさらに絞り込みをすることにすが、この段階では25語で検討していく。

■表2 補助教材で扱われている携帯情報端末の技術とサービスに係る用語 (25語)

ケータイ、基地局、オンラインゲーム、パケット料金 (パケットフリー、パケット定額)、SNS、絵文字、動画投稿サイト (動画共有サイト)、トラックバック、SSL通信 (暗号化通信)、プロフ (プロフィールサイト)、迷惑メール拒否 (メール受信拒否、迷惑メール対策)、フィルタリング、オプトインメール (オプトアウトメール)、メーリングリスト、ハンドルネーム、クッキー、P2P (ピアツーピア)、識別番号 (製造番号)、アクセスポイント、無線LAN、オンラインショッピング (ネットショッピング)、ネットバンキング、ネットオークション、ワン切り、セキュリティホール

4 『情報通信白書』における記述と頻度

4.1 『情報通信白書』を調査する意義

情報関係に係るデータを収集し分析している白書として、総務省が毎年発行する『情報通信白書』がある。高校生が総合的な学習の時間に自主研究のテーマを設定し、資料収集のために公的機関の発行する白書を利用する可能性がある。普通教科「情報」を学習した高校生が、携帯電話等のサービスについて『情報通信白書』を用いて調べ学習を行う能力を身に付けているならば、「情報活用能力の育成」の目的を果たしているといえる。

4.2 『情報通信白書』の調査結果

表2の用語がどの程度『情報通信白書』で用いられているかについて、2007年から2010年までの4か年について調査したものが、表3である。

情報通信白書は、2007年版と2008年版は第1章が特集、第2章が情報通信の現況、第3章が情報通信政策の動向という構成になっている。2009年版と2010年版は第1部が特集、第2部が情報通信の現況と政策動向について書かれている。特集は2007年が「ユビキタスエコノミー」、2008年が「活力あるユビキタスネット社会の実現」、2009年が「日本復活になぜ情報通信が必要なのか」、2010年が「ICTの利活用による持続的な成長の実現～コミュニケーションの権利を保障する「国民本位」のICT利活用社会の構築～」である。その年の特集によって扱われる用語に違いはあるが、情報通信白書はそれぞれの年度の残りの章または節で、情報通信の状況と情報通信政策の動向を整理している。政府刊行物であることと、内容を吟味した結果、情報通信白書は高校生が普通教科「情報」の授業で学ぶべき用語を計る物差しの一つとして使うことができると考え調査した。

調査は完全一致する語句を検索し抽出した。以下、調査結果をもとに考察する。「ケータイ」は2007年版、2008年版で2回、2009年版で11回、

■ 表3 『情報通信白書』における用語の使われた回数 (単位：回)

		2007年版	2008年版	2009年版	2010年版
1	ケータイ	2	2	11	33
2	基地局	11	5	12	12
3	オンラインゲーム	7	3	4	2
4	パケット料金	0	0	0	1
	(パケットフリー)	0	0	0	0
	(パケット定額)	2	0	0	0
5	SNS	45	21	22	204
6	絵文字	0	0	11	0
7	動画投稿サイト	1	1	1	3
	(動画共有サイト)	7	0	1	23
8	トラックバック	4	2	1	0
9	SSL通信	0	0	0	0
	(暗号化通信)	0	0	0	0
10	プロフ	0	1	3	1
	(プロフィールサイト)	0	0	0	0
11	迷惑メール拒否	0	0	0	0
	(メール受信拒否)	0	0	0	0
	(迷惑メール対策)	9	12	10	8
12	フィルタリング	18	30	29	18
13	オプトインメール	0	2	4	1
	(オプトアウトメール)	0	0	2	0
14	メーリングリスト	0	0	1	5
15	ハンドルネーム	0	0	0	0
16	クッキー	0	0	0	0
17	P2P	0	5	6	0
	(ピアツーピア)	0	0	0	0
18	識別番号	0	0	0	0
	(製造番号)	0	0	0	0
19	アクセスポイント	3	0	0	0
20	無線LAN	34	0	1	4
21	オンラインショッピング	0	2	0	1
	(ネットショッピング)	1	3	0	1
22	ネットバンキング	1	0	4	2
23	ネットオークション	2	3	8	3
24	ワン切り	0	0	0	0
25	セキュリティホール	0	0	0	0

2010年版で33回と年を追うごとに増加している。2010年度版の33回のうち、25回は「みんなで作る情報白書コンテスト2010」の一般の部最優秀賞及び優秀賞受賞コラムの3つから拾ったものである。コラム1つを1回と数え直すと、2010年版は11回となり、2009年版と同じとなる。2010年版で「ケータイ」に関して取り上げた項目が際だって増えたわけではないが、コンテストの受賞コラムに「ケータイ」に関するものが3つあることから、「ケータイ」という言葉が身近な用語と考えることができる。「SNS」について情報通信白書では特集の中で扱われる回数が多く、2007年版41回、2008年版20回、2009年版20回、2010年版201回である。特集で多く取り上げられることは、社会の関心の高さを示していると考えられる。「SNS」が他に比べ多く拾われており、しかも2010年に飛躍的に増

大していることから、インターネット上におけるコミュニケーションの場を提供するものとして、ニーズが急速に高まっていることが読み取れる。「SNS」は各年版の情報通信の現況、情報通信政策の動向の中からも拾われていることから、授業で取り上げるべき用語と考えることができる。「絵文字」は2009年版だけが11回であり、その他は0回である。2009年版の11回は「みんなでつくる情報白書コンテスト2009」の一般の部優秀賞コラムを書いた高校2年の女子生徒が使用した10回と、小・中学生の部で優秀賞コラムを書いた中学校2年の女子生徒が使用した1回である。これら2つのコラムを書いた中学生や高校生にとって「絵文字」に関心があることは読み取れる。しかし2007年版から2010年版の情報通信白書を調べた限り、「絵文字」は2009年版で2つのコラムからのみ拾われていることから、授業で取り上げるべき用語の候補にはできないと考えることができる。「動画投稿サイト（動画共有サイト）」は2007年版で「動画共有サイト」の用語が7回拾い上げられているが、うち6回は特集で使われ、その中の5回は1つの時系列の表の中で用いられていた。2010年版においては、「動画共有サイト」の用語を23回すべて特集から拾い出したのに対し、「動画投稿サイト」の用語を3回のみ情報通信の現況、情報通信政策の動向のところから拾い出した。「動画投稿サイト」と「動画共有サイト」は同じ意味で用いているが、使う場面でどちらを用いているか注意深く見る必要があることがわかった。「オプトインメール（オプトアウトメール）」について、2007年版から2010年版にかけてすべて0回である。しかし、「オプトイン」又は「オプトアウト」で拾い上げると、表3にあるように「オプトイン」が2008年版2回、2009年版4回、2010年版1回となる。「フィルタリング」の用語の使用回数が4年間に平均して多いことから、有害情報への関心が高いことがわかる。「無線LAN」について2007年版で34回拾い上げたが、18回が特集で用いられ、1回を情報通信の現況、残り15回を情報通信政策の動向から拾い出した。その他の用語については、特に年版ごとに偏りが見られず、平均的に拾い上げられた。

4.3 『情報通信白書』の調査結果からの用語の絞り込み

『情報通信白書』の調査及び考察により、授業で取り上げるべき用語を表4のように14語に絞り込んだ。絞り込む条件として、4年版のうち少なくとも3年版にわたって取り上げられていること、かつ取り上げられている回数の合計が5回以上のものとした。

■ 表4 『情報通信白書』の調査結果から絞り込んだ用語（14語）

ケータイ、基地局、オンラインゲーム、SNS、動画投稿サイト（動画共有サイト）、トラックバック、プロフ（プロフィールサイト）、迷惑メール拒否（メール受信拒否）、フィルタリング、P2P（ピアツーピア）、無線LAN、オンラインショッピング（ネットショッピング）、ネットバンキング、ネットオークション

5 『現代用語の基礎知識』における記述と頻度

5.1 『現代用語の基礎知識』を調査する意義

『現代用語の基礎知識』は、その年に起きたことや流行したことについていち早く、情報を処理し基礎知識としてまとめた用語事典である。マスコミなどで使われる新語などを加え毎年出版され、その年々に応じた内容を示している。2007年から2010年までの4か年に、表2の用語が取り上げられた回数を調査した。高校生が学んでおくべき用語としてふさわしいかを、『現代用語の基礎知識』といった一般的な用語事典において取り上げられている頻度という視点から考えてみた。

5.2 『現代用語の基礎知識』の調査結果

『現代用語の基礎知識』で表2の用語を調査した結果が、表5である。『現代用語の基礎知識』で全文検索を行い、「見出し」と「見出しと本文」を選択した。「見出し」で使用されている用語は「本文」で説明に使われている用語よりも重要性が高いと考え調査した。

「ケータイ」は2007年、2009年の「見出し」が8回、2008年と2010年の「見出し」が4回、2007年から2010年の「見出しと本文」が23回以上であり、拾い上げられた回数が平均して高い。「基地局」は「見出し」には使われていないが、「見出しと本文」で毎年4回以上拾い出されており、他の用語の説明に使われていることから重要である。「オンラインゲーム」は、毎年「見出し」が1回、2007年から2010年の「見出しと本文」が3回以上であり、「本文」の説明に2回以上使われており、重要である。「パケット料金（パケットフリー、パケット定額）」は、「見出し」で2010年に1回拾い上げられているが、「見出しと本文」で2008年に1回、2010年に3回と少なく、普段広告やパンフレットで頻繁に見聞きする印象とは違いがある。「SNS」は2007年に「見出し」で20回、「見出しと本文」で33回と多く、次の3年でも「見出し」は3回以上、「見出しと本文」で20回程度であり、よく使われており重要である。「絵文字」は「見出し」では扱われず、「見出しと本文」では4か年毎年拾われたが2回以下と少ないため、それほど重要ではないと判断した。「動画投稿サイト（動画共有サイト）」は2007年から2009年までは「見出し」が0回で「見出しと本文」が2回あるいは3回であった。しかし2010年には「見出し」に「動画投稿サイト」と「動画共有サイト」がそれぞれ1回ずつ拾われ、「見出しと本文」では、4回となり、重要性が増していると判断できる。「トラックバック」は「見出し」が2007年に2回、その後3年間に1回ずつ、「見出しと本文」は毎年3回以上拾い出され、重要性を持っていると判断できる。「SSL通信（暗号化通信）」は『現代用語の基礎知識』からは拾い出せなかった。「プロフ（プロフィールサイト）」は2007年には「見出し」、「見出しと本文」とともに拾い出せなかつ

■ 表5 『現代用語の基礎知識』における用語の使われた回数 (単位: 回)

		2007年		2008年		2009年		2010年	
		見出し	見出しと本文	見出し	見出しと本文	見出し	見出しと本文	見出し	見出しと本文
1	ケータイ	8	23	4	23	8	33	4	28
2	基地局	0	4	0	5	0	4	0	4
3	オンラインゲーム	1	5	1	4	1	3	1	3
4	パケット料金	0	0	0	1	0	0	0	1
	(パケットフリー)	0	0	0	0	0	0	0	0
	(パケット定額)	0	0	0	0	0	0	1	2
5	SNS	20	33	4	21	3	16	3	23
6	絵文字	0	1	0	2	0	2	0	2
7	動画投稿サイト	0	2	0	2	0	1	1	1
	(動画共有サイト)	0	0	0	1	0	1	1	3
8	トラックバック	2	10	1	5	1	3	1	5
9	SSL通信	0	0	0	0	0	0	0	0
	(暗号化通信)	0	0	0	0	0	0	0	0
10	プロフ	0	0	3	4	2	3	3	7
	(プロフィールサイト)	0	0	0	0	0	0	0	0
11	迷惑メール拒否	0	0	0	0	0	0	0	0
	(メール受信拒否)	0	0	0	0	0	0	0	0
	(迷惑メール対策)	0	0	0	0	0	0	0	0
12	フィルタリング	2	3	2	4	3	7	3	8
13	オプトインメール	0	0	0	0	0	0	0	0
	(オプトアウトメール)	0	0	0	0	0	0	0	0
14	メーリングリスト	1	5	1	3	1	3	1	4
15	ハンドルネーム	1	2	1	2	1	1	1	3
16	クッキー	1	1	1	1	1	1	1	2
17	P2P	1	3	1	4	1	4	1	4
	(ピアツーピア)	1	2	0	2	0	1	1	3
18	識別番号	0	2	0	2	0	2	0	1
	(製造番号)	0	0	0	0	0	0	0	0
19	アクセスポイント	0	4	0	5	0	4	0	4
20	無線LAN	2	12	2	14	2	12	2	17
21	オンラインショッピング	0	1	0	1	0	2	0	1
	(ネットショッピング)	1	3	1	3	1	2	0	1
22	ネットバンキング	2	2	2	2	2	2	1	2
23	ネットオークション	3	12	2	6	1	3	0	3
24	ワン切り	2	3	2	3	2	2	2	4
25	セキュリティホール	1	1	1	1	1	1	1	2

たが、2008年以降は「見出し」で2あるいは3回、「見出しと本文」で3回以上と拾われる回数も増し、重要性が増していると言える。「迷惑メール拒否 (メール受信拒否、迷惑メール対策)」は「見出し」、「見出しと本文」とともに拾えなかった。「フィルタリング」は「見出し」で2007年2回、2008年2回、2009年3回、2010年3回拾うことができ、「見出しと本文」で2007年3回、2008年4回、2009年7回、2010年8回拾うことができ、年々増加していることから重要性が増している。「オプトインメール (オプトアウトメール)」は『現代用語の基礎知識』からは拾い出せなかった。「メーリングリスト」は「見出し」では毎年1回拾うことができ、「見出しと本文」も毎年3~5回拾うことができ、重要である。「ハンドルネーム」は「見

出し」で毎年1回拾うことができ、「見出しと本文」で毎年1～3回拾うことができ、重要であると言える。「クッキー」は「見出し」で毎年1回拾うことができ、「見出しと本文」で毎年1～2回拾うことができ、重要である。「P2P（ピアツーピア）」は「見出し」で毎年1～2回拾うことができ、「見出しと本文」で毎年5～7回拾うことができ、重要であると言える。「識別番号（製造番号）」は「見出し」で拾うことができず、「見出しと本文」でも毎年1～2回しか拾うことができず、どちらかという重要性は低い。「アクセスポイント」は「見出し」で拾われていないが、「見出しと本文」で毎年4～5回拾い出されており、他の文言の説明に使われていることから重要性は高い。「無線LAN」は「見出し」で毎年2回拾うことができ、「見出しと本文」で毎年12～17回拾うことができ、重要であると言える。「オンラインショッピング（ネットショッピング）」は「見出し」で2007年～2009年に毎年1回拾うことができ、「見出しと本文」でも4回拾うことができたが、2010年に「見出し」で拾うことができない上に「見出しと本文」で2回と減少した。しかし、4か年通して考えると重要であると判断した。「ネットバンキング」は「見出し」で2007年から2009年に2回、2010年に1回拾い出されており、「見出しと本文」で毎年2回拾い出されており、重要性は高い。「ネットオークション」は「見出し」で2007年3回、2008年2回、2009年1回、2010年0回、「見出しと本文」で2007年12回、2008年6回、2009年3回、2010年3回と減少傾向ではあるが、4か年通して考えると重要である。「ワン切り」は「見出し」で毎年2回、「見出しと本文」で2007年、2008年が3回、2009年2回、2010年4回と安定しており、重要であると考えられる。「セキュリティホール」は「見出し」と「見出しと本文」で毎年すべて1回である。見出しに使われていることから、重要であると判断する。

5.3 『現代用語の基礎知識』の調査結果からの用語の絞り込み

『現代用語の基礎知識』の調査及び考察により、授業で取り上げるべき用語を表6のように19語に絞り込んだ。絞り込む条件として、4年間で「見出し」で2回以上取り上げられ、かつ「見出しと本文」で10回以上取り上げられている用語とした。

■ 表6 『現代用語の基礎知識』の調査結果から絞り込んだ用語（19語）

ケータイ、基地局、オンラインゲーム、SNS、動画投稿サイト（動画共有サイト）、トラックバック、プロフ（プロフィールサイト）、フィルタリング、メーリングリスト、ハンドルネーム、クッキー、P2P（ピアツーピア）、アクセスポイント、無線LAN、オンラインショッピング（ネットショッピング）、ネットバンキング、ネットオークション、ワン切り、セキュリティホール

6 新聞における記述と頻度

6.1 新聞を調査する意義

新聞は日々起きている事象について、事実を正確に伝えるという役割を担っている。高等学校で生徒に新聞を読み、政治、経済、社会の動きを把握し、それに対する自分の考えをまとめさせ、発表させることはよくあることである。大学入学試験の小論文対策であったり、就職試験の作文対策であったり、高校生にとって新聞は大切な情報源である。新聞で取り上げられている言葉は、社会人をはじめ、高校生も社会の動きを把握するために知っておくべきものである。表2で示した用語がどの程度新聞で扱われているかを調査することは、その用語がどの程度社会一般で使われているかを知る手がかりとなる。新聞で扱われる頻度が高ければ、その用語は高校生として学ぶべき重要性が高いと言える。今回、北海道新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、産経新聞の5紙の新聞データベースを用いて、表2の用語がどの程度使われているかを調査する。調査期間を4期に区切り、2007年度を2007年4月1日～2008年3月31日、2008年度を2008年4月1日～2009年3月31日、2009年度を2009年4月1日～2010年3月31日、2010年度は年度途中ではあるが、2010年4月1日～2010年8月31日とする。新聞ごとに調査を進める。

6.2 『北海道新聞』の調査結果

『北海道新聞』で表2の用語を調査した結果が、表7である。『北海道新聞データベース』で全文検索を行い、対象として「見出し」と「本文」を選択した。

検索した用語のうち、「見出し」、「本文」とも拾えなかった用語は、SSL通信（暗号化通信）、オプトインメール（オプトアウトメール）、クッキー、P2P（ピアツーピア）、セキュリティホールである。さらに各年度の「見出し」が1回以下で「本文」が5回以下の用語を、重要度が低いものとする。

残った用語を見ていく。「ケータイ」は2007～2009年度に「見出し」が30回程度の高い数字を示していた。2010年度は4回となり、調査期間が短いことを考慮しても少ない。「本文」も2007年度の126回を頂点にして減少している。「ケータイ」という用語が徐々に社会に定着し、目新しいものとして新聞記事になりにくくなったのかもしれないが、高校生が学ぶべき用語であることに変わりはない。「基地局」は2007～2009年度に「見出し」では4～5回、「本文」では27回～38回と多く扱われているが、2010年度は「見出し」では1回、「本文」では11回と減少した。「オンラインゲーム」は「見出し」では2009年度に1回見られるのみで、「本文」では2007年度の10回、2008年度の3回、2009年度の6回、2010年度の4回と減少してい

■ 表7 『北海道新聞』における用語の使われた回数 (単位：回)

		2007年		2008年		2009年		2010年	
		2007年4月1日 ～2008年3月31日		2008年4月1日 ～2009年3月31日		2009年4月1日 ～2010年3月31日		2010年4月1日 ～2010年8月31日	
		見出し	本文	見出し	本文	見出し	本文	見出し	本文
1	ケータイ	25	126	37	108	29	96	4	30
2	基地局	5	30	4	27	4	38	1	11
3	オンラインゲーム	0	10	0	3	1	6	0	4
4	パケット料金	0	3	0	1	0	0	0	1
	(パケットフリー)	0	0	0	0	0	0	0	0
	(パケット定額)	0	0	0	1	0	0	0	1
5	SNS	10	24	5	23	4	23	2	13
6	絵文字	0	5	0	3	1	6	0	5
7	動画投稿サイト	3	25	0	22	1	38	0	23
	(動画共有サイト)	0	0	0	3	0	2	0	0
8	トラックバック	0	1	0	0	0	1	0	0
9	SSL通信	0	0	0	0	0	0	0	0
	(暗号化通信)	0	0	0	0	0	0	0	0
10	プロフ	0	0	10	30	4	23	1	35
	(プロフィールサイト)	0	0	0	17	0	14	0	2
11	迷惑メール拒否	0	0	0	0	0	0	0	0
	(メール受信拒否)	0	0	0	0	0	0	0	0
	(迷惑メール対策)	0	1	0	1	0	0	0	0
12	フィルタリング	0	45	0	37	1	20	0	12
13	オプトインメール	0	0	0	0	0	0	0	0
	(オプトアウトメール)	0	0	0	0	0	0	0	0
14	メーリングリスト	0	8	0	7	0	5	0	3
15	ハンドルネーム	0	5	0	4	0	0	0	3
16	クッキー	0	0	0	0	0	0	0	0
17	P2P	0	0	0	0	0	0	0	0
	(ピアツーピア)	0	0	0	0	0	0	0	0
18	識別番号	1	0	0	0	0	0	0	0
	(製造番号)	0	2	0	1	0	1	0	1
19	アクセスポイント	0	1	0	0	0	0	0	1
20	無線LAN	5	21	0	10	1	25	9	30
21	オンラインショッピング	0	2	0	2	0	4	0	4
	(ネットショッピング)	0	7	0	7	0	11	1	7
22	ネットバンキング	0	9	0	2	1	4	0	0
23	ネットオークション	0	63	3	69	1	57	0	6
24	ワン切り	1	1	0	0	0	1	0	0
25	セキュリティホール	0	0	0	0	0	0	0	0

るが、授業で学ぶべき用語である。「SNS」は「見出し」では2007年度10回、2008年度5回、2009年度4回、2010年度2回と減少しているが、「本文」では2007年度24回、2008年度23回、2009年度23回と高い頻度で拾い出されており、2010年13回も期間が5か月と短いために少ないと考えると、授業で学ぶべき用語として重要であると考えられる。「絵文字」は「見出し」では2009年度に1回見られるのみで、「本文」でも2007年度5回、2008年度3回、2009年度6回、2010年度5回と必ずしも多くはないが、授業で学ぶべき用語として残しておく。「動画投稿サイト(動画共有サイト)」は「見出し」では2007年度3回、2009年度1回拾い出されたのみであるが、

「本文」では2007年度25回、2008年度22回、2009年度の38回、2010年度23回と高い頻度で拾い出されており、授業で学ぶべき用語である。「プロフ（プロフィールサイト）」2007年度は「見出し」と「本文」とともに0回であるが、「見出し」では2008年度10回、2009年度4回、2010年度23回拾い出されており、「本文」では2008年度30回、2009年度の23回、調査期間が短い2010年度は35回と高い頻度で拾い出されており、授業で学ぶべき重要な用語であると考えることができる。「フィルタリング」は「見出し」では2009年度1回拾い出されたのみであるが、「本文」では2007年度45回、2008年度37回、2009年度の20回、2010年度12回と高い頻度で拾い出されており、授業で学ぶべき用語である。「メーリングリスト」は「見出し」では拾い出されていないが、「本文」では2007年度8回、2008年度7回、2009年度5回、2010年度3回と拾い出されており、授業で学ぶべき用語である。「無線LAN」は「見出し」では2007年度5回、2009年度1回、2010年9回拾い出された、「本文」では2007年度21回、2008年度10回、2009年度25回、2010年度30回と年度によって拾い出される回数に違いはあるが、高い頻度でもあり、授業で学ぶべき用語である。「オンラインショッピング（ネットショッピング）」は、オンラインショッピングとネットショッピングの両方の用語が「本文」で拾い出されており、どちらの用語も広く使われていると考えることができる。「ネットバンキング」は「見出し」では2009年度に1回のみ拾い出されているが、「本文」では2007年度9回、2008年度2回、2009年度4回拾い出された。ただし、2010年度は「見出し」、「本文」とともに0回であるが、授業で学ぶべき用語であると考えられる。「ネットオークション」は「見出し」では2008年度3回、2009年度に1回拾い出されているが、「本文」では2007年度63回、2008年度69回、2009年度57回、2010年度6回と高い頻度で拾い出され、授業で学ぶべき用語であると言える。このような考察から、『北海道新聞』の調査結果から絞り込んだ用語（13語）を表8に示す。

■ 表8 『北海道新聞』の調査結果から絞り込んだ用語（13語）

ケータイ、基地局、オンラインゲーム、SNS、絵文字、動画投稿サイト（動画共有サイト）、プロフ（プロフィールサイト）、フィルタリング、メーリングリスト、無線LAN、オンラインショッピング（ネットショッピング）、ネットバンキング、ネットオークション

6.3 『朝日新聞』の調査

『朝日新聞』で表2の用語を調査した。調査の内容は、『聞蔵Ⅱビジュアル 朝日新聞記事データベース』で全文検索を行い、対象として「見出し」と「本文」を選択した。

検索した用語のうち、「見出し」、「本文」とも拾えなかった用語は、SSL通信（暗号化通信）、オプトインメール（オプトアウトメール）、クッキー、セキュリティホールである。さらに各年度の「見出し」が1回以下で「本文」が5回以下の用語を、重要度が低いものとする。それ以外は原

則として、授業で学ぶべき用語とする。

『北海道新聞』の調査で、個々の用語について詳細に見てきた。重複する事柄も多いことから、個々の用語については傾向の違いがある場合についてコメントする。これ以降取り上げる新聞についても同様とする。「プロフ（プロフィールサイト）」、「クッキー」は「本文」の検索結果に関係のない用語が多数含まれていたため、分析の効率化を図るため、「携帯電話」という用語を条件に加え、AND検索を行った。具体的に数字を見ていく。「プロフ（プロフィールサイト）」は「見出し」、「本文」で検索を行うと、プロフェッサー、プロフットボール、プロフィール、プロフェッショナルといった語句も拾われた。「見出し」については、拾われた記事を1つずつ確認し、関係するものを拾い出した。たとえば、2007年は27回検索により拾い出したが、記事の内容を確認した結果、「プロフ」に関係するものは2回であった。「本文」は2007年度に364回拾い出されたため、「携帯電話」という用語とのAND検索をした結果、33回となった。この数字を「プロフ（プロフィールサイト）」の2007年度の「本文」で拾い上げた回数とした。「プロフ」のみの検索結果は2008年度407件、2009年度389回、2010年度は168回であり、「携帯電話」とのAND検索の結果は2008年度70回、2009年度52回、2010年度70回であった。同様に「クッキー」は、お菓子のクッキーが検索結果の大半であった。2007年度を例に説明する。「クッキー」で検索すると「見出し」は24回であり、記事を詳細に検討した結果0回であった。「本文」は「クッキー」で検索すると342回であり、「携帯電話」とのAND検索の結果5回であったが、記事の内容を調べた結果お菓子のクッキーに関するものであり、0回であった。

『朝日新聞』の調査により、重要であると判断した17語は、後述する表10で示している。

6.4 『産経新聞』の調査

『産経新聞』で表2の用語を調査した。調査の内容は、『The Sankei Archives 産経新聞』で全文検索を行い、対象として「見出しのみ」と「本文のみ」を選択した。

検索した用語のうち、「見出し」、「本文」とも拾えなかった用語は、オプトインメール（オプトアウトメール）である。さらに各年度の「見出し」が1回以下で「本文」が5回以下の用語を、重要度が低いものとする。それ以外は原則として、授業で学ぶべき用語とする。

『朝日新聞』同様、「プロフ（プロフィールサイト）」、「クッキー」は「本文」の検索結果に関係のない用語が多数含まれていたため、分析の効率化を図るため、「携帯電話」という用語を条件に加え、AND検索を行った。『産経新聞』は、「プロフィールサイト」ではなく、「プロフィールサイト」という用語を用いている。そのため検索には「プロフィールサイト」という用語を用いた。

『産経新聞』の調査により、重要であると判断した19語は、後述する表10で示している。

6.5 『毎日新聞』の調査

『毎日新聞』で表2の用語を調査した。調査の内容は、『毎日Newsパック』で全文検索を行い、対象として「見出し」と「見出し+本文」を選択した。検索した用語のうち、「見出し」、「見出し+本文」とも拾えなかった用語は、オプトインメール（オプトアウトメール）と「セキュリティホール」である。さらに各年度の「見出し」が1回以下で「見出し+本文」が5回以下の用語を、重要度が低いものとする。それ以外は原則として、授業で学ぶべき用語とする。

『朝日新聞』、『産経新聞』同様、「プロフ（プロフィールサイト）」、「クッキー」は「本文」の検索結果に関係のない用語が多数含まれていたため、分析の効率化を図るため、「携帯電話」という用語を条件に加え、AND検索を行った。

『毎日新聞』では、「プロフィールサイト」と「プロフィルサイト」という用語の両方を用いている。検索には「プロフィールサイト」と「プロフィルサイト」の両方を用いた。

『毎日新聞』の調査により、重要であると判断した18語は、後述する表10で示している。

6.6 『読売新聞』の調査

『読売新聞』で表2の用語を調査した。調査の内容は、『ヨミダス歴史館』で検索を行い、対象として「全文」と「キーワード」を選択した。他の新聞との比較をするために、「見出し」と「本文」を対象としたかったが、残念ながら『読売新聞』の検索方法には見つけられなかった。検索した用語のうち、「全文」、「キーワード」とも拾えなかった用語は、オプトインメール（オプトアウトメール）と「セキュリティホール」である。さらに各年度の「全文」が5回以下で「キーワード」が5回以下の用語を、重要度が低いものとする。それ以外は原則として、授業で学ぶべき用語とする。

「プロフ（プロフィールサイト）」、「クッキー」、「識別番号（製造番号）」は「全文」、「キーワード」とも、期待した検索結果に関係のない用語が多数含まれていたため、分析の効率化を図るため、「携帯電話」という用語を条件に加え、AND検索を行った。

『読売新聞』の調査により、重要であると判断した15語は、後述する表10で示している。

6.7 『読売新聞』を除く4紙の「見出し」の調査

『読売新聞』を除く4紙の調査では、共通して「見出し」を検索の項目とした。表2の用語が4紙の「見出し」でどの程度拾い出されるか調査した。これまで各紙において、用語の絞り込みに用いた規則をこの場合も適用する。4紙すべての「見出し」で拾えなかった用語は、「SSL通信（暗号化通信）」、「オプトインメール（オプトアウトメール）」、「ハンドルネーム」、「クッキー」と「セキュリティホール」である。さらに4紙の各年度の「見出し」

が1回以下の用語を、重要度が低いものとする。それ以外は原則として、授業で学ぶべき用語とする。

『読売新聞』を除く4紙の「見出し」の調査により、重要であると判断した15語は、後述する表10で「新聞見出し」として示している。

7 インターネット上のWeb情報における記述と頻度

7.1 インターネット上のWeb情報を調査する意義

インターネットが急速に普及し、高校生も情報収集の手段としてWebページ等を手軽に利用するようになった。普通教科「情報」の授業において、インターネットを用いた情報検索や電子メール等による情報受発信は学ぶべき内容である。高校生はインターネットを身近なものとして捉え、新聞の他に社会一般の事柄について、情報収集する手段として活用することも多い。Web上で検索エンジンを用いて、表2にあげた用語がどの程度扱われているかを調べることは、高校生が学ぶべき用語かどうかを確認するために、意義があることであると考えられる。

7.2 インターネット上のWeb情報の調査結果

ロボット型検索エンジンである『Google』を用いて、表2の用語を調査した。『Google』では期間が設定できるため、2007年4月1日から2008年3月31日までを2007年度、2008年4月1日から2009年3月31日までを2008年度、2009年4月1日から2010年3月31日までを2009年度、2010年4月1日から2010年8月31日までを2010年度として検索を行った。その結果を示したものが、表9である。

検索で拾われたWebページの年月日は更新日であり、該当のページが最初にアップされた年月日は不明である。たとえば、2007年度にアップされたWebページであっても、頻繁に更新されて2010年度に最終更新されていれば、2010年度に含まれることになる。検索のヒット数が数百万ヒットであるものもあり、表9の単位を千ヒットとして表示した。調べた用語に対するヒット数が多いことは、それだけ一般によく用いられている用語であるということが言える。1桁少ないヒット数が表示されている「パケット料金 (パケットフリー、パケット定額制)」や「P2P (ピアツーピア)」は、他と比べるとあまり扱われていないと言える。他より1桁少ないヒット数を示した用語が必ずしも高校生が学ぶべき用語として重要ではないと判断できない。インターネット上の検索エンジン『Google』を用いて調査した結果、表2の用語すべてを重要なものとする。

■表9 検索エンジン『Google』における用語のヒット数（単位：千ヒット）

	年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
	期間	2007年4月1日～ 2008年3月31日	2008年4月1日～ 2009年3月31日	2009年4月1日～ 2010年3月31日	2010年4月1日～ 2010年8月31日
1	ケータイ	2,330	2,280	2,220	2,240
2	基地局	2,370	2,360	2,330	2,350
3	オンラインゲーム	2,210	2,260	2,260	2,210
4	パケット料金	747	1,560	2,310	2,250
	(パケットフリー)	182	297	521	636
	(パケット定額)	593	1,080	2,010	2,250
5	SNS	2,280	2,230	2,240	2,260
6	絵文字	2,300	2,260	2,280	2,280
7	動画投稿サイト	2,440	2,430	2,490	2,480
	(動画共有サイト)	2,300	2,340	2,290	2,330
8	トラックバック	2,450	2,450	2,530	2,640
9	SSL通信	2,370	2,370	2,360	2,350
	(暗号化通信)	2,300	2,340	2,360	2,340
10	プロフ	2,280	2,290	2,330	2,300
	(プロフィールサイト)	2,420	2,420	2,480	2,640
11	迷惑メール拒否	700	1,120	2,030	2,000
	(メール受信拒否)	596	926	2,010	1,930
	(迷惑メール対策)	2,380	2,390	2,380	2,390
12	フィルタリング	1,010	1,680	2,340	2,360
13	オプトインメール	39.0	65.2	65.2	84.1
	(オプトアウトメール)	23.9	37.8	174	78.3
14	メーリングリスト	854	2,380	2,400	2,400
15	ハンドルネーム	2,400	2,400	2,820	2,450
16	クッキー	1,090	1,730	2,380	2,380
17	P2P	394	470	784	624
	(ピアツーピア)	403	475	79	630
18	識別番号	215	291	695	647
	(製造番号)	2,220	2,340	2,350	2,380
19	アクセスポイント	2,330	2,280	2,260	2,270
20	無線LAN	2,120	2,130	2,120	1,990
21	オンラインショッピング	2,250	2,260	2,300	2,190
	(ネットショッピング)	2,300	2,360	2,360	2,390
22	ネットバンキング	2,310	2,370	2,380	2,380
23	ネットオークション	2,390	2,380	2,410	2,390
24	ワン切り	2,050	2,340	2,330	2,370
25	セキュリティホール	662	1,050	2,010	1,960

8 総合評価

各新聞、情報通信白書、現代用語の基礎知識、検索エンジン『Google』を利用して検証した用語について、普通教科「情報」の中で学ぶべきものはどれか最終的に検討を加える。各新聞、情報通信白書、現代用語の基礎知識、検索エンジン『Google』を行った結果、選び出した用語を整理したのが表10である。

■ 表10 総合評価表

	北 海 道 新 聞	朝 日 新 聞	産 経 新 聞	毎 日 新 聞	読 売 新 聞	新 聞 見 出 し	情 報 通 信 白 書	現 代 用 語 の 基 礎 知 識	グ ー グ ル 検 索	総 合 判 定 1	総 合 判 定 2	総 合 判 定 3
1 ケータイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2 基地局	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3 オンラインゲーム	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4 パケット料金 (パケットフリー) (パケット定額)		○		○					○			○
5 SNS	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6 絵文字	○	○	○	○	○	○			○		○	○
7 動画投稿サイト (動画共有サイト)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8 トラックバック			○				○	○	○			
9 SSL通信 (暗号化通信)				○					○			
10 プロフ (プロフィールサイト)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11 迷惑メール拒否 (メール受信拒否) (迷惑メール対策)		○	○	○	○	○	○		○		○	○
12 フィルタリング	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
13 オプトインメール (オプトアウトメール)									○			
14 メーリングリスト	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○
15 ハンドルネーム		○	○	○	○			○	○		○	○
16 クッキー								○	○			
17 P2P (ピアツーピア)		○	○			○	○	○	○			○
18 識別番号 (製造番号)									○			
19 アクセスポイント			○	○				○	○			○
20 無線LAN	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
21 オンラインショッピング (ネットショッピング)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
22 ネットバンキング	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
23 ネットオークション	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
24 ワン切り								○	○			
25 セキュリティホール								○	○			

各新聞、新聞の「見出し」、情報通信白書、現代用語の基礎知識、検索エンジン『Google』で調査し、授業で学ぶべき用語かどうかを判断した結果を一覧表にした。すべての調査で選ばれた用語を集めたものが「総合判定1」である。5つ以上の調査で選ばれた用語を集めたものが「総合判定2」である。3つ以上の調査で選ばれた用語を集めたものが「総合判定3」である。

総合判定1~3のうちどれを選ぶかは、普通教科「情報」の授業時間数

の中で、どの程度これらの用語を指導する時間を確保できるかによる。今回は50分授業の3コマを想定していたことから、用語としては15語程度が妥当であると考え。総合判定2で選ばれた用語を採用し、表11に示す。

■ 表11 携帯情報端末の技術及びサービスに係る用語（15語）

ケータイ、基地局、オンラインゲーム、SNS、絵文字、動画投稿サイト（動画共有サイト）、プロフ（プロフィールサイト）、迷惑メール拒否（メール受信拒否、迷惑メール対策）、フィルタリング、メーリングリスト、ハンドルネーム、無線LAN、オンラインショッピング（ネットショッピング）、ネットバンキング、ネットオークション

9 おわりに

高等学校の普通教科「情報」の授業の中で、平成18年3月3日の教科書検定以降に主に取り上げられるようになり、教科書に主として載っていない「携帯情報端末の技術及びサービスに係る用語」について、どのような用語を取り上げるべきかを考察し調査してきた。教科書における用語の記述の調査、補助教材における用語の記述の調査、教科書の用語と補助教材の用語の重複の調査、授業で教えるべき用語の選出、新聞及び白書と用語事典による社会一般での使われる頻度の調査、授業で教えるべき用語の確定といった一連の作業を行った。

参考文献

1 学習指導要領等

- 文部科学省『高等学校学習指導要領（改訂版）』独立行政法人国立印刷局（2004）
- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説情報編（一部補訂）』開隆堂出版株式会社（2005）
- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説総則編』株式会社東山書房（2009）
- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説情報編』開隆堂出版株式会社（2010）

2 教科書

- 赤堀侃司他『情報A Step Forward!』東京書籍株式会社（2008）
- 井口磯夫他『新版情報A』教育出版株式会社（2008）
- 大岩元他『みんなの情報A』株式会社オーム社（2002）
- 岡本敏雄・山極隆他『高校情報A』実教出版株式会社（2010）
- 岡本敏雄・山極隆他『最新情報A』実教出版株式会社（2008）
- 岡本敏雄・山極隆他『新版情報A』実教出版株式会社（2005）
- 岡本敏雄・山極隆他『情報A』実教出版株式会社（2002）
- 坂村健・清水謙多郎・塚越登著『三訂版情報Aようこそ情報の世界へ』数研出版株式会社（2009）
- 永野和男・山西潤一編『高等学校情報A最新版』株式会社新興出版社啓林館（2008）
- 永野和男編『高等学校情報A改訂版』株式会社新興出版社啓林館（2008）

中村祐治他『新版情報A』開隆堂出版株式会社（2009）

水越敏行・村井純編『新・情報A』日本文教出版株式会社（2007）

水越敏行・村井純編『情報A』日本文教出版株式会社（2007）

山口和紀他『高等学校三訂版情報A』株式会社第一学習社2009）

3 補助教材

大橋真也・森夏節・立田ルミ・他『ひと目でわかる最新情報モラル高校版』日経BP社（2010）

実教出版編集部『事例でわかる情報モラル改訂版』実教出版株式会社（2010）

情報教育学研究会（IEC）・情報倫理教育研究グループ『インターネット社会を生きるための情報倫理2010』実教出版株式会社（2010）

数研出版編集部『ポイント整理情報モラル』数研出版株式会社（2009）

第一学習社編集部『ケーススタディ情報モラルver.4』教育図書出版第一学習社（2010）

東書教育シリーズ高等学校情報科生徒用資料『携帯電話と情報モラル』東京書籍株式会社（2008）

東書教育シリーズ高等学校情報科生徒用資料『携帯電話と情報モラル2』東京書籍株式会社（2010）

日経BPソフトプレス編『情報最新トピック集第2版』日本文教出版（2008）

4 白書

総務省『情報通信白書2007』

総務省『情報通信白書2008』

総務省『情報通信白書2009』

総務省『情報通信白書2010』

5 用語事典（DVD版）

Logo Vista電子辞書シリーズ『現代用語の基礎知識1991～2010』Logo Vista

6 オンラインデータベース

朝日新聞『聞蔵II ビジュアル for Library』

産経新聞『The Sankei Archives』

北海道新聞『北海道新聞データベース』

毎日新聞『毎日Newsバック』

読売新聞『ヨミダス歴史館』

（2010年9月30日受理、2010年12月7日修正原稿受理、2011年2月9日採択）